

## 提言「融合社会脳研究の創生と展開」

### 1 現状及び問題点

社会脳とは、健全な社会適応を導き、豊かな社会性を生み出す脳の働きをさす。協働生活を営む人間にとって、仲間との協調や共感重要であるが、その脳内メカニズムは不明である。複雑化するネット社会がコミュニケーション不全、様々な適応障害や依存症を生みだし、個人の主体性の希薄化を導く傾向にある。現在、海外では人文社会科学を軸に、先端脳科学や情報学が融合して拓く融合社会脳の研究が進展しているが、わが国は大幅に立ち遅れている。ICT や AI を基盤とする、来るべき超スマート社会(Society5.0)に適応する心を育むためには、自己と社会を結ぶ文化、宗教や教育等の脳内メカニズムを、広く融合社会脳の展望に立って解明するための研究を創生することは喫緊の課題である。そして、その展開研究により、少子高齢化にフィットし、人々が幸福感をもって暮らせる超スマート社会をデザインすることができる。

### 2 提言の内容

#### (1) 融合社会脳研究の必要性

現代の情報化社会では徐々に健全な社会性が失われつつある。インターネット媒介のプロセス依存症等はストレスを生み、引きこもりやうつ状態等の社会不適応を増加させ、自殺やいじめの引き金となる。そこで、他者への共感と思いやりなどの健全な社会性の形成と維持の脳内メカニズムを、人文社会科学的視点を加えて解明し、融合社会脳研究を開拓する必要がある。そのためには、世界の社会脳科学を先導する融合社会脳の研究と教育を担う拠点の創設が必要である。

#### (2) 学術的意義

機能的磁気共鳴画像法(fMRI)や2名の相互の脳活動の同時計測であるハイパースキヤニングの技法等により、前頭葉とその近傍内側領域における自己と他者とのインタラクティブなコミュニケーションの解明を通して、社会適応や社会意識の形成について、新たな融合社会脳科学の領域を切り拓くことができる。本提言では、豊かな社会性を生み出す支えとなる、他者の心を想像・理解する基盤となる心の理論や、思考や学習の基盤となる記憶(ワーキングメモリ)などについて、心理学を軸とした人文社会科学、先端脳科学や情報学の融合社会脳研究から解明する点に学術的意義をもつ。

#### (3) 社会貢献

健全な社会性の基盤となる社会適応を導き、適応への障害となる様々な社会性障害の原因を解明し、教育や学力ともかかわる健康な精神・社会性の回復、乳幼児の社会脳の

発達や高齢化とかかわる社会脳の衰退の機構を解明し、健全な社会性への復帰を目指す。新しい研究教育拠点として、融合社会脳研究センターを創設し、融合社会脳の基礎と展開研究を行い、社会適応を改善するための様々な応用研究や政策の立案を行う。